ワーキンググループでの検討事項

目標 ： 物質収支の把握、精度向上

H22年度

H23年度

H24年度

H25年度

H26

現状認識・課題抽出

①
流入負荷量
把握の
精度向上

山林系原単位を整理する

斐伊川からの負荷量をLQにより把握する（A ）

事業場系原単位等の整理する

まとめ

②
湖底と湖水の物
質収支の検証

底質から溶出したりんの挙動（流出・再沈降）を定量する（B ）

まとめ

底質の性状を把握する（J）

まとめ

③
その他の物質
収支の検証

プランクトン種の出現頻度の把握する（B ）

D-CODと植物プランクトンの関係を把握する（G）

植物プランクトンの存在比を把握する（E ）

難分解性有機物の量を把握する（H）

まとめ

塩分成層と貧酸素濃度の変動について把握する（I ）

まとめ

まとめ

シミュレーション
モデルの
構築、活用

【メカニズム解明】

ワーキンググループでの指摘事項に係る検討

【施策検討】

地形データの精査等により、
塩分再現性の向上を検討する

2000～2011年の気象等の
データを入力する

STDデータを利用して、塩分
再現性の向上を検討する

365日調査
結果等を
利用し、
水質再現性
の向上
について
検討する。

まとめ

第６期湖沼水質保全計画の策定